

第2学年 実践例(生活科)

本時：平成26年7月8日(火) 場所 教室 指導者 教諭 田中 真梨子

1 単元名 2年「生きもの大すき」(教育出版)

2 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるように継続的な飼育栽培をする。」を受けて設定したものである。

本教材は、児童が自らの手で継続的に動物を飼ったり植物を育てたりすることを通して、身近な動物や植物に興味・関心をもち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、動物や植物を大切にすることができるようにすることをねらいとしている。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	2年
げんきにそだて	生きもの大すき

- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。(12名)

全員が生き物を飼育した経験がある。本学級には、動物図鑑や昆虫図鑑など好んで読んでいる児童や、家庭で小動物を飼育してよく話をしてくれる児童がいる。カブトムシ、クワガタ、金魚、メダカは、半数以上の児童が飼育したことがあると答えており、生き物に対する興味・関心は高いといえる。しかし、メダカやカニを教室で飼育した時は、はじめは積極的に世話をし意欲的にかかわったが、なかなか長続きがしなかった。また、生き物に対する知識はあっても、それが実際に体験から生まれたものでなく、書籍やテレビなどからの情報によるものだったり、おうちの人から聞いた情報だったりすることが多い。そこで、学級の児童には、今までの知識をこの単元において直接体験により裏付けさせ、どんな小さな生き物にも命があるということを実感し、これからの生活の中で生き物に対する接し方について考えられる子どもになってほしいと考えた。

3 仮説にせまる授業での取組

(1) 問題設定の工夫(仮説1)

- 危険性が少なく、比較的世話をしやすいこと、毎日のお世話が必要な生き物(メダカ・カニ・オタマジャクシなど)を飼育対象とし、一人一種類必ず育てるようにする。
- 前回の失敗(死なせた経験)を基に、飼育するための条件をしっかりと調べたり、確かめたりする機会を設ける。
- 生き物ランドづくりを糸口に、生き物の飼育につなげていく。

(2) 自分の考えをもち、表現できる手立ての工夫(仮説2)

- 何について調べるか確認したうえで、図書資料を使って十分に調べる場や時間をもたせる。
- 『生きものランド』を作り、常時飼育・観察を続けながら最後には1年生を招待し、「生きもの発表会」で学習してきたことを発信させる場を設定する。
- 自分で調べたことや気付いたことをワークシートにまとめ、発表の場を設定するとともに、友達の見解にアドバイスをしたり、質問したりする機会を設ける。

(3) 身近な生活や自然で理科を実感させる工夫(仮説3)

- 食べ物・すみか・成長の様子などの視点をもたせ、自然や他の生き物と比較する。

4 単元の見目

- 生き物とかかわりながら、生き物の生息環境、食べ物、体のつくりや行動の特徴などに気付き、身近な自然に目を向け、親しむことができるようにする。
- 生き物の観察や世話をすることにより、生き物にも自分と同じように生命があり、成長していることに気付くことができるようにする。また、上手に世話ができるようになった自分の成長に気付くことができるようにする。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
① 身近な生き物に関心をもってかかわろうとしている。 ② 生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、世話をしようとしている。 ③ 育てている生き物に心を寄せ、繰り返しかかわろうとしている、 ④ 生き物に親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。	① 育ててみたい生き物を選んだり決めたりしている。 ② 生き物の育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫している。 ③ 生き物の立場に立って考え、世話の仕方を工夫している。 ④ 育ててきた生き物との関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。	① 生き物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ② 育てている生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ③ 生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ④ 生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

6 指導と評価の計画（11時間取扱い）

次	時	主な学習活動[◇教師の指導・留意点]〈 〉は小単元	評価規準及び評価方法
第1次 3時間	1	〈生きもの大すき〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どんな場所にどんな生き物がいるだろうか </div> ○生き物を見つけたり、つかまえたりした経験を出し合う。 ○校内の自然の中にどんな生き物を見つけたことがあるか発表する。 〈生きものをさがしにいこう〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 生き物をさがしに行こう </div>	関心・意欲・態度① （発言・行動観察）
	2 3	◇今までの学校での経験と、家庭生活の経験の両面から思い出させる。 ◇どんなところにいたのか、どうやって見つけたのか発表させる。 ◇自分の経験から生き物のいる場所を考えさせ、子ども同士で情報を交換させる。 ◇飼うことのできる範囲の生き物を持って帰るようにし、たくさんとったものはもとの場所に返してあげるように指導する。	

第2次 3時間	4	<p>〈すみかを作ってあげよう〉</p> <p>生き物のすみかを作ろう</p> <p>○生き物のすみかについて話し合う。</p> <p>○飼い方を図鑑や書籍、インターネットなど、様々な方法を使って調べる。</p>	<p>◇子どもたちが自主的に調べられるように、時間を十分確保する。</p>	<p>関心・意欲・態度② (学習カード、発言) 思考・表現② (発言・学習カード) 思考・表現③ (発言・行動観察) 気付き② (発言・行動観察)</p>
	⑤ 本時	<p>○生きものに合ったすみかやえさについて、発表し、意見を交換しあう。</p>	<p>◇自然の中の生き物は、自分で住みよいところで暮らしていることに気付かせる。</p>	
	6	<p>○すみかを作って育てる。</p>		
第3次 5時間		<p>〈生きものを紹介し合おう〉</p> <p>育てた生き物の秘密を発表しよう</p>		<p>関心・意欲・態度③ (行動観察) 思考・表現④ (学習カード・行動観察) 気付き③ (学習カード・発言)</p>
	7 8	<p>○自分が飼っている生き物を紹介しあうことについて話し合う。</p> <p>○自分が発見した生き物の不思議や秘密を話し合う。</p>	<p>◇生き物をとった時や世話をしていた時に気付いたことを思い出させる。</p>	
	9	<p>○飼っている生き物をよく観察して、不思議や秘密探しをする。</p> <p>〈生きものクイズをしよう〉</p> <p>生きものクイズ大会をしよう</p>	<p>◇グループで発表を行う場合は、役割分担や協力についてもうまく話し合わせる。</p>	
	10 11	<p>○生き物たちの不思議や秘密を、絵に描いたり、カードにしたりしてクイズを作る。</p> <p>○1年生を生き物ランドに招待し、クイズ大会をする。</p>	<p>◇命の大切さに気付くように指導する。</p> <p>◇発表する時は大きな声で分かりやすく発表するように指導する。</p>	

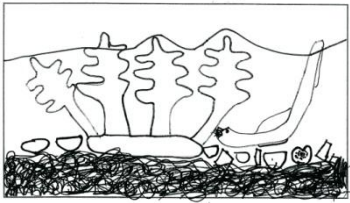
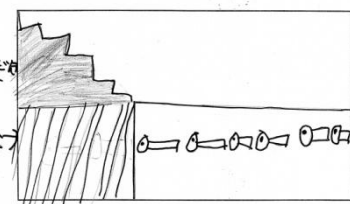
7 本時の学習 (本時 5/11時間)

(1) **目標** 今までに集めた生き物のすみかに関する情報や知っていることを基に、生き物にふさわしい環境について話し合い、生き物を大切に育てようとする意欲をもつ。【思考・表現】

(2) 仮説との関連

本時においては**仮説2**を中心として研究を進める。学級で育ててきたメダカのお世話の仕方について振り返り、すみかに目を向けさせ、自分が育てたい生き物のすみかについて、じっくり考えさせる。また、すみかを考える過程で悩んだことやアドバイスを出すことで、自分の考えを発表したり、友達と意見を交流したりする場を設定する。

(3) 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
つかむ	10	1 本時のめあてをつかむ。 ・すみかが良くなかったからです。 ・えさが良くなかったからです。 ・お世話の仕方が良くなかったからです。	○メダカが死んでしまった経験から、なぜ長生きできなかったのか、原因を考えるようにし、すみかに目を向けさせる。	ワークシート
もとめる	15	2 ホワイトボードにすみかの絵を描く。 ・このくらい水を入れるといいかな。 ・砂利は斜めにして陸を作るんだったな。 ・田んぼにいたから、田んぼの土を入れようかな。 ・自然に近いすみかを作ろう。	○最初に教師がどのように描けばいいか例示する。 ○本時では、「すみか」について描き、えさについては本時以降に考えることを伝える。 ○それぞれの生き物について調べたことを交流し、生き物にふさわしい環境について、自分のワークシートに付け加えるなどしてまとめる。	
		<p>めあて：生き物が長生きするようなすみかを考えよう。</p> <p>(メダカ)のすみかの絵</p>  <p>(メダカ)のすみかの絵</p> 	<p>思考・表現② (ホワイトボード・発表)</p> <p>B基準 育てる生き物に合ったすみかがあることに気付いている。</p> <p>A基準 友達が育てるすみかにアドバイスすることができている。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 ○思いつかない児童には、その生き物がどの場所にいたのか想起させるなど、すみかづくりのヒントを与えるようにする。 〈B基準に達した児童に取り組ませる活動〉 ○早く終わった児童には、終わった人同士で意見を交換し合わせる。 ○描いているときに悩んだことを発表させ、他の児童にそれに対するアドバイスを発表させる。 ○児童が描いたワークシートを黒板に貼り、ポイントを板書する。</p>	
深める	15	3 自分のすみかの設計図について発表する。 ・水はどのくらい入れるといいか悩みました。 ・息ができるように体が少し見えるくらい水を入れるといいと思います。	○授業で分かったこと、気付いたこと、感想を発表させる。	
まとめる	5	4 授業の感想を発表する。 ・みんなの意見を聞いて、すてきなすみかを作ろうと思いました。 ・早く生き物を育てたいです。		

○ 「徹底指導」と「能動型学習」

本時においては、一人一種類の生き物を確保し、自分が育てたい生き物について考えることで、能動的な学習が進められるようにする。また、ホワイトボードにすみかの絵を描かせることで、一人一人に自分の考えをもたせるように徹底する。

- 本時で身に付けさせたい科学的な言葉
すみか、自然

8 研究の実際

【既にもっている見方や考え方（素朴な概念）】

児童の多くは、生き物に関心がある。しかし、教室でカニやメダカ、カブトムシなどを飼育したときは、最初は意欲的に進んでお世話をしていたが、なかなか長続きしなかった。また、生き物に対する知識はあっても、それが実際に体験から生まれたものでなく、書籍やテレビなどからの情報によるものだったり、おうちの人から聞いた情報だったりすることが多い。そこで、今までの知識をこの単元において直接体験により裏付けさせ、どんな小さな生き物にも命があるということを実感し、これからの生活の中で生き物に対する接し方について考えるための実践を行った。

【仮説1について】 生き物を長生きさせたいという気持ちを高める

「生き物ランド」をつくり、他学年を招待するという単元の最終目標をはっきりさせることで、自分の生き物を育てて紹介したいという意欲を高めた。生き物ランドをするためにはどんなことが必要かを児童とともに考え、①生き物を集める。②すみかを作り、生き物を育てる。③生き物のことをくわしく調べ、クイズを作る。の3つをめあてとして授業に取り組んだ。

生き物集めでは、保護者に協力していただいた。「内田川にザリガニがいた」「一つ目神社のため池でドジョウを捕まえた」「田んぼのあぜでホウネンエビとカブトエビを見つけた」など豊かな校区の自然を生かし、たくさんの生き物を探すことができた。

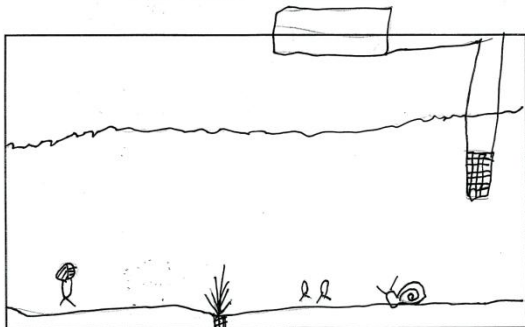
【仮説2について】 自分の考えをしっかりとせ、発表したいという意欲を高める

生き物のすみかを考える授業では、全員にホワイトボードを持たせ、自分が育てる生き物のすみかの設計図を描かせた。設計図を描くのが初めてのことで、教師も児童と重ならないように育てる生き物を決め、設計図のモデルを示した。このことで、普段は発表することが苦手な児童も様々な考えをボードに描くことができた。「カブトエビは田んぼにいるから、田んぼの土と稲を入れてあげるといいかな（図2-①）」などの生き物を捕まえた場所の環境、今まで読んできた本で学んだ知識、お家の人から教えてもらったこと、自分が体験して考えたことなどを活かして、どのようなすみかにすれば生き物が長生きするか考えた（写真2-①）。「ザリガニには隠れ場をつくろう（図2-②）」「サワガニは息ができるように水はここまでだな（図2-③）」「フナが楽しいように遊び場をつくろう（図2-④）」などのつぶやきも多く見られ、すみかも詳しく描くことができた。



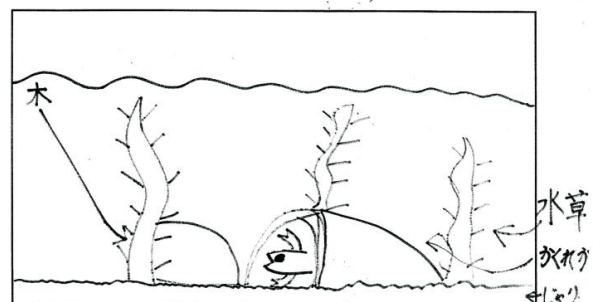
（写真2-①）

（カブトエビ）のすみかの絵



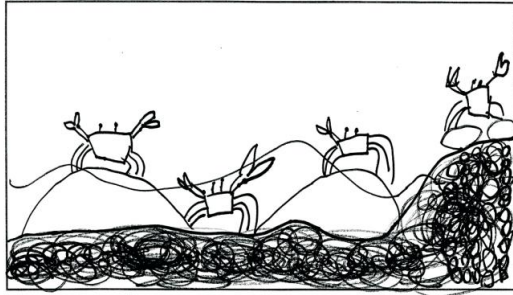
（図2-①）

（ザリガニ）のすみかの絵



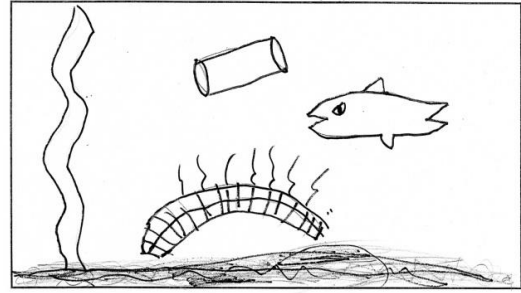
（図2-②）

(たぬし) のすみかの絵



(図 2-③)

(いさな) のすみかの絵



(図 2-④)

自分で考えた後は、みんなからアドバイスをもらう時間を設定した(写真2-②)。「タニシを入れると水がきれいになるから、入れた方がいいです」というアドバイスがあったが、「タニシを入れたら、メダカを食べてしまうから、入れない方がいいです」という反対意見もあった。その後、話し合いを重ね、「メダカが大きくなってから、タニシを入れた方がいいと思います」という意見が出て、悩みを発表した児童は、メダカが大きくなってからタニシを入れることを選択した。



(写真 2-②)

後日、すみかを作り、実際に生き物を飼育した。しかし、何度挑戦しても、カブトエビは死んでしまった。「何で死んでしまったと思う？」ときくと、「エサが良くなかった」「すみかを元の場所と同じにしないといけないのかな」という気付きとともに、生き物の寿命や命の大切さを実感することができた。

最後に、生き物ランドを作り、他学年を招いて自分たちの生き物について紹介した(写真2-③④)。1年生に紹介するときには、クイズ形式にして、生き物の不思議や生態について分かりやすく説明した。一人一問クイズを作り、全員が紹介できるようにした。

クイズをつくる中で、友達同士で教え合う姿が多く見られ、「先生、〇〇くんが、オタマジャクシはかつお節が好きだって教えてくれました」と嬉しそうに話す児童もいた。1年生に紹介するときには、多くの児童が自信をもって発表することができた。また、「どこで捕



(写真 2-③)



(写真 2-④)

ってきたの？」や「何で石を入れるの？」などの質問に意欲的に答える姿も多く見られた。昼休みには、他学年を招いて生き物を紹介したり、触らせたりして交流した。

【仮説3について】学んだことや気付いたことを元に、自然や事象を見直す

生き物ランドが終わり、今後生き物をどうするかについて話し合ったところ、「自然に逃がす」という意見で全員一致した。そこで、どこに逃がすのか考えたところ、「元の場所に逃がさないといけない」という意見が出たので、みんなでそれぞれの生き物の元のすみかに逃がすことにした。

【より高まった科学的な見方や考え方(科学的な概念)】

一人一種類生き物を育てることで、生き物への関心を高めるとともに、生き物には適したすみかやエサがあることを学ばせることができた。また、生き物ランドを紹介する活動の中で、生き物の生態や不思議さにも気付くことができた。最後は、「どうしたら生き物が幸せか」について考え、生き物にとっては元々いた自然が一番いいすみかであることに気付くことができたとともに、生命の大切さについても考えることができた。